

サンプル - 販売禁止 - 全著作権所有



世界観

聖書的思考とライフスタイルのため
のハンドブック

キャサリン・ギャラガー著

サンプル – 販売禁止 – 全著作権所有



著作権 © 2026 GoStrategic

無断転載を禁ずる。また、本書のいかなる部分も、出版社からの書面による事前の許可なく、批評や論文における簡単な引用を除き、いかなる形式、いかなる手段によっても複製、検索システムへの保存、送信することを禁ずる。

出版社：GoStrategic, USA

www.gostrategic.org/jp

アダム・ピーコック、デニス・ピーコック、キャサリン・ギャラガーによるオーディオ教本を基にキャサリン・ギャラガーが執筆。

編集：アリソン・トムソン、カテリン・マクラウド、ブルース・ビリントン

主翻訳者：ジェンキンス 久美子

追加翻訳レビュー：クーニー 敦子

目次

はじめに：なぜ世界観が重要なのか

セクション 1

第 1 章：前提的世界観パート I

第 2 章：前提的世界観パート II

第 3 章：証拠のある世界観：証拠はどこにあるのか？

第 4 章：世界観の適用

セクション 2

第 5 章：神の本質

第 6 章：人間の本質

第 7 章：真実の本質

第 8 章：世界観の旅路

結論

はじめに：なぜ世界観が重要なのか

本書の目的は、私たちの日常生活における信仰に関する事柄を探求し、取り扱い、また私たちの持っている世界観が考え方やライフスタイルにどのような影響を与えているのかを理解することです。本書を読むことで、**世界観とは何か、なぜそれが重要なのか**をより深く理解していただくことを願っています。

あなたはこう思うかもしれません。「私は牧師でも教会リーダーでもない。哲学にそれほど興味があるわけでもない。神学校に通うつもりもないし、心理学を学ぶつもりもない。この内容は私に当てはまるのだろうか？」その答えは YES です！世界観は、私たちの神との歩みにおける付加要素ではありません。世界観は、イエスとの関係の中核となる要素です。私たちの霊的形成と成熟のために不可欠なものです。

世界観という言葉が使われる時、それは世界の宗教の教義を比較する学問を意味します。それには世界宗教の教義を体系的に比較することが含まれます。他の宗教に精通することには価値がありますが、本書の焦点はそこではありません。**世界観とは、私たちが人生と宇宙に関して何を信じているか、また私たちがそれをどのように習得しているかを理解する学びです。**

ここで紹介する疑問や概念は誰にでも当てはまるものでしょう。私たちは皆、自分の思考や信念に縛られており、その思考は現実と欺瞞に左右されているものです。私たちが現実として認識しているもの、つまり私たちの世界観は、私たちの視点と選択を決定づけています。概念は結果を伴います。それらは私たちの信念を形成し、習慣やライフスタイルという形で私たちの生活に定着して現れています。

救われていても、キリスト教的世界観を持っていないこともある。

サンプル – 販売禁止 – 全著作権所有

私たちがイエスに従うことを決意するとき、イエスは私たちの心に変化をもたらし、様々な決断のために見分ける力を与えてくださいます。しかし、自動的に以前の考え方の全てが神の言葉や性質に一致するようになるわけではありません。自分の世界観を見直し、それが神の原則と一致するように努めることは私たちの責任です。つまり、救われていても必ずしもクリスチャンとしての世界観を持っているとは限らないということです。

世界観とは何か？

世界観とは、社会、文化、そして私たちを取り巻く世界について私たちが持っている個人的な信念や推定（前提）の集結であり、現実に関する私たちの見方を決定づけています。

あなたはこう思うかもしれません。「神は、私が世情についてどう考えているか本当に興味があるのだろうか？世界の成り立ちや社会について私が何を信じているかは神への信仰と何か関係するのだろうか？」

答えは YES です。世界観は、人生の全ての分野に計り知れないほどの影響を与えており、だからこそクリスチャンにとって、神の視点を通して世界を理解することは非常に重要なのです。私たちが何を信じているかは、意識的にも無意識的にも、私たちの選択やライフスタイル、影響力に作用しています。

私たちの観点の形成について、聖書が語っていることを見てみましょう。

「あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。」

コロサイ人への手紙 2 : 8

「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」

ローマ人への手紙 12 章 2 節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」

テモテへの手紙 第二 4 章 2~4 節

サンプル – 販売禁止 – 全著作権所有

聖書は私たちが、自分の心を守り、自分の信念を吟味し、自分の考えや決断が神のみによって形成され、導かれているように注意を向けるべきであると明確に語っています。私たちは内側に個人的な偏見を抱いているものです。社会において私たちは、他の不完全な人間から答えを求めます。しかし完全でない観点に信頼することでは、神の義は決して生まれません。

しかし実際のところ、私たちは自分が何を信じているか完全に把握していないかもしれません。それらは、「意識的信念と無意識的信念」、「反省的信念と非反省的信念」という言葉で表現することができるかもしれません。つまり私たちは、自分の世界観が人生の状況や影響によって形作られていることに気づかず、無意識のうちにある哲学を信じていたり、デフォルトな状態の信念を作り上げているかもしれません。

今日のクリスチャンの多くは、複数の宗教や哲学の教義や信念を融合させた、いわゆるシンクレティックな世界観を持っています。イエスを愛しながら、他の情報源から得たさまざまな事柄を信じ続けて、世界観が混合している状態です。混在した世界観は、混在したメッセージを生み出し、多くの場合、キリストを完全に反映しないライフスタイルを生み出します。私たちは、聖書とキリストの生涯の原動力となっていた原則に基づいて、完全に統合された世界観を持つ者でありたいです。

信念は通常、証拠と事実と経験的真実に基づいて形成されています。同様に信仰は、たとえすべての事実を知っていなくても、信念に根ざすことができます。信仰には信頼という要素があるからです。宗教の相違に関係なく、人は誰もが何かに信頼を置いています。問うべき質問は、「あなたは信仰によって生きていますか？」ではなくむしろ、「あなたはどのような信仰によって生きていますか？」なのです。

結局のところ、誰もが「なぜ私はここにいるのか？」と自問しています。そして誰もがその問いに対する答えをそれぞれ選択しているのです。したがって、それを認識していても認識していなくても、誰もがすでに世界観を持っているのです。

このコースでは、世界観を3つのパートに分けて探求していきます：

- **前提** (私たちの心の中にあるもの)
- **エビデンシャル** (心の中にあるもの)
- **適用的** (私たちがどう行動し、どう生きるか)

私たちは皆、世界観の旅を続けている。

自分の世界観を発見する旅において、私たちはまず影響を受けている状態から出発します。そして、異なる視点に遭遇するとき、それぞれどのように応答するか決断します。もし私たちが自分の考え方を神の

サンプル – 販売禁止 – 全著作権所有

言葉に一致させることを選ぶなら、私たちは真理によって生きる方向を定め、真理は私たちの内側に取り入れられていきます。このようにして、私たちはデフォルト状態ではなく、神の意図したデザインによって生き始めることができます。

世界観と考え方（何を考えるかではなく、どう考えるか）を学ぶには、多くの質問をしなければなりません！

次の3つの問いで私たちの現実観と行動は決定づけられます：

1. 神の性質について、私たちは何を信じているのか？
2. 人間の性質について、私たちは何を信じているのか？
3. 真実の性質について、私たちは何を信じているのか？

ものの「本質」は、次の問いによって知ることができます：

- それは存在しているのか？
- それはどのような性質なのか？
- それをどう定義するか？

世界観は真理への生涯の旅である。

思考を磨き、議論を効果的に処理し、明確な世界観を獲得するための近道はありません。決断、選択、葛藤、人間関係、そして人生を歩いていくための一連のツールとリソースを得ていくためには継続的なコミットメントが必要となります。このような考え方を身につけるには、時間と忍耐と理解が必要ですが、その見返りは大きいです。それは私たちに大きく影響します。

この会話の内容のほとんどは、私たちが何を選択するか、またどう生きるかということに帰結します。宗教やライフスタイルなどについて、私たちは何を決断するのでしょうか？西洋文化では、選択を「正しいか正しくないか」（多くの東洋文化では「高潔であるか恥ずべきか」でしょう）という観点から枠にはめる傾向があります。しかし聖書は、多くの場合、「いのちと死」という文脈で語っています。ある種の思考や決断は（肉体的にも霊的にも）死を刈り取るものであり、他のものはより豊かないのちをもたらすものであると考えます。人生の大きな疑問に対する答えを探し求めるとき、神の言葉は、死ではなくいのちを経験する方法を教えています。

「私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。…」

サンプル – 販売禁止 – 全著作権所有

「デザインに沿った生き方」を始める人は、意識的にも無意識的にも成長する機会を得て、周囲に影響を与えていきます。戦いが始まるのは心の中です。どんな人間になりたいか。自分の信念にどこまで忠実でいられるか。それを決めるのは心です。他人が私たちに彼らの世界観を共有しようとするとき、私たちはそのような人たちとどう関わるか、または私たちの信じている事柄に関して質問してくる人たちとどう関わるか、私たちには常に選択肢が与えられています。

クリスチャンとして、私たちは自分の主張を相手に納得させたいという願いで伝道に臨むかもしれません。その結果、双方が自分の主張を証明しようとするため、大きな論点をめぐって言い争いになることさえあるでしょう。相手が考えていることの核心を完全に誤解してしまいかねません。効果的な伝道と文化的な関わりには、正しい質問をすること、つまり人々が自分の根底にどのような信念を持っているか発見するのに役立つ問いかけをすること、そして会話の中で聖霊がどう働かれるのを見ていくことが必要です。私たちは自分の信仰について答えられる準備が必要ですが、議論に巻き込まれることは避けたいものです。

始まった議論は終わらせることができる。

結局のところ、真理は頭の中だけでなく、心のレベルで明確に表現され、心のレベルで受け取られる必要があります。実についての議論に夢中になってしまって、根っこを完全に見逃してしまうこともあるのです。根源が明確になれば、適切な問いかけをすることができるようになります。そして、その難しい問いかけがその人の心に染み込んで、その人が心のうちで葛藤して、神にその人を引き寄せていただくためのスペースを設ける必要があります。

世界観というクリティカル・シンキング（批判的思考）の旅に出るとき、神が私たちのうちに、また私たちを通して何をなさろうとしておられるのかということにまず最初にフォーカスしていきます。知識と理解が深まっていく中で、私たちは常に心を主にオープンにしていきます。すべてはそこから始まるからです。

まとめ

- 世界観とは、社会、文化、そして私たちを取り巻く世界についての個人的な信念の集結である。
- クリスチャンでありながらキリスト教的世界観を持っていない場合がある。
- 自覚の有無にかかわらず、誰もが世界観を持っている。
- 世界観とは視点のプロセスである。議論によって納得させられた人は、また議論によってそれを否定することができる。私たちは自分自身で世界観を探し、決めなければならない。

ディスカッションのための質問

サンプル – 販売禁止 – 全著作権所有

1. 「現在、あなたの世界観は意識的なものと無意識的なもののどちらに影響されていますか？それはなぜですか？」
2. 「世界観の概念を友人に説明する簡単な方法は？」
3. 「どうすれば神の視点と自分の世界観を一致させることができるでしょうか？」

対応するオーディオ/ビデオ教材なし

セクション 1





GoStrategic について

1979年にデニス・ピーコックによって設立された GoStrategic は、あらゆる文化圏のリーダーを養成し、国々を弟子化し、世界を変革するために信じる者を整えていくことを使命とする預言的ミニストリーです。GoStrategic は国際的に活動しており、オンラインスクール (School of Business Leadership | GoBusiness; School of Strategic Living | GoLife; School of Kingdom Citizenship | GoCitizen)やイベント、ネットワーキング、教材を通してクリスチャンを教育しています。私たちのミニストリー本部はカリフォルニア州サンタローザにあり、世界中に提携校があります。 www.gostrategic.org

キャサリン・ギャラガーについて

キャサリン・ギャラガーは現在、GoStrategic のエグゼクティブ・ディレクターを務めています。過去に中小企業経営者としての経験を持ち、作家、講演家として数多くのメディアに取り上げられています。キャサリンはアズサパシフィック大学でコミュニケーションの学士号を取得し、夫と2人の子供とともにカリフォルニア州サンタローザに在住しています。 www.katherinegallagher.tv



聖書的世界観に関する資料（このハンドブックの小グループ用資料を含む）については、GoStrategic のウェブサイトをご覧ください：

www.gostrategic.org/worldview



www.gostrategic.org/jp

